

昭和四十年六月二十二日招集(第百三十三号)
第二回市議会定例会會議錄

館山市議会第二回定例会会議録(第三号)

昭和四十一年六月招集

一 六月五日(木曜日)

一 現在議員三十四名でその氏名次々としり

一番 吉田 勇治郎

二番 鈴木 正一郎

三番 小柴 孝

四番 館石 伝蔵

五番 田中 祿郎

六番 秋山 大三郎

七番 田村 源治郎

八番 望月 照正

九番 安西 益男

一〇番 辻 田 実

二番 石井 正

三番 菊井 敏博

四番 志村 信作

五番 小沢 恵太郎

六番 関 武夫

七番 黒川 佐太郎

八番 西村 真次

九番 藤田 好治

三番 保科 忠夫

二番 江田 徳太郎

三番 君塚喜三

三番 中村省吾

二番 島野茂樹郎

二番 教生田七郎

二番 嶋田 繁

二番 山田教宇

二九番 鈴木市蔵

三番 安藤電吉

三一番 安天徳順

三番 三沢 節

三三番 高橋文治

三四番 山本 昇

三五番 松本 藤太郎

三六番 山口 康

一、議事日程(第二号)

第一 諮問第一号 公有水面埋立について

第二 議案第三十五号 館山市消防団員等公務災害補償条例

の制定について

議案第四十四号

昭和四十二年 度館山市一般会計、補正予算

議案第四十五号

昭和四十一年 度館山市館山エースホテル特別

第三

会計補正予算

〔議案第四十六号 昭和四十一年度館山市上水道事業特別会

計補正予算〕

第四請願書

午前十時三十分開議

議長（田中稔郎君）本日、出席議員数 三十名。

こゝより第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日、議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
日程第一、諮問第一号を上程いたします。

（書記朗読）

諮問第一号 公有水面埋め立てについて

土木部長（新井重助君）諮問第一号につきまして御説明申

上げます。

本埋め立て地は館形、西防波堤、根本から埋め立てするものでありますが、この根本に従来から高尾造船所が造船をやっておりまして、終戦以後からやっておるものでございますが、最近造船事業が繁栄して参りまして、それとともに拡張という段階に立ち至つたのでございます。根本の使用してゐる海岸を水面より方に七百五十六・五平方メートルの埋め立てと前面はコンクリートで護岸をいたすことになつております。埋め立て地の上に作りますのが倉庫を一棟二十二・六平方メートル、鉄鋼工場を一棟三百六十平方メートル、三という計画で今回埋め立ての申請を千葉県知事にいたしてございます。

本地先は防波堤の根本でございまして、漁業上、影郷海水浴場に何ら影響がございませうで、私ども、商

認めておるうでございしますが、知事より諮問事項でございしますうで、議会の御承認を得たくここに上程いた次第でございます。

・議長(田中祿郎君)本諮問に対する答申案が吉田勇治郎君ほか五名より発案されております。これも同時に並行審査を行ないます。

・一番(吉田勇治郎君)ただ今土木課長より説明がありまして諮問第一号につきまして五名が賛成者を得て発議者として答申案を提出いたしますのでよろしく御審議を願います。

(答申案朗読)

三番(安藤亀吉君)御趣旨は結構でございますが、一番支障があるのは漁業会あたりからと思うが、漁業会の意向はどうか。

・土木課長(新井重助君)も答へ申し上げます。漁業会の方からは本年二月二十日付で同意書が出されておりますので漁業上の問題はなにも思いません。

・議長(田中祿郎君)こゝ答申案に異議なしとみなして決定いたします。

日程第三議案第三十五号を上程いたします。

本案は去る六月二十一日の本会議より説明がなされております。よつてなだちに質疑を行ないます。

・三〇番(安藤亀吉君)次長さんにお伺いいたします。

最近の消防活動が重要視というものは、だんだん国家で認められておるにもかかわらず、なかなかすべり予算が回ってこない。一かゝり今回やうなことによつて逐次国家の負担が増額しつつあるということでは喜ばしい傾向と存じておりますが、ここに六条

非常勤消防団に行ないます。救急業務に協力！また
は、応急措置の業務に従事したことにまつて対象と
なるという項目がございますが、救急業務とは、消防
署でやっている救急業務のことですか。また
他の救急業務をさしてあるのか。お伺いしたい。

・消防本部長(石渡東君)現在消防署で行なっており
ます。救急業務に一般民間人、市民の方々に手伝い
願ったときに負傷、または死亡があつたときというふうには
解釈願いたいと思います。

・三、番(安藤亀吉君)今までは救急業務というものは、
一つは市サービス業務として災害補償の対象になつて
いなかったけれども今は消防取組の救急業務に対する
公務災害補償というものが適用されてあるかどうか
いますか。その点をお伺いしたい。

それから、この中にはございせんが、いわゆる捜査業務
例えば警察の要請に応じて犯人逮捕に協力した
そういう場合の負傷、そういう場合にも対象になり
ますか。

消防本部次長(石渡東君) 第一、救急業務でございます
が、御承知のとおり、政令をもって救急業務を行な
わなければならぬと定めておるわけでございしますが、定
められておらない本市におきましても、対象になるという
ふうに果ておっしゃっておるわけで、なると解釈願いたい。
警察へも協力でございしますが、本条例では、該当し
ない、(三) 解釈願います。

一〇番(辻田実君) この補償なんです。補償の資金、こ
れは共済とかそういうものにある程度掛金を掛けて
支給するのとか、それ点について、どういう制度に

入つてゐるかおらないか。二う点についてお伺ひたい。

第三点に消防取員、補償金については一時金だけで年金というんですが、三ういうものが、ないやうに伺がわゆるが二う点について非常勤、障害について、年金制度にかわるという二点について私はどういふ根拠でもって年金になつたのか。その点についてお伺ひたいわけですか。と申します。それは計算上でみると年金が非常に長くもらえると、遺族なり、障害者がどういふ状況にある場合、合にかなり高額がもらえるけれども、そうでない場合は、少なくなる。そういう面で増額というより改悪になるやうな傾向も伺がわゆるやうに解釈されたんですが、二う点についてどうなりか。二う三点についてお伺ひたい。

消防本部次長（石渡東君）まず第一う資金の問題でございますが、これは法律に基いて定めらるやうな消防団員

公務災害等補償共済基金というものができており、
まして基金に對しまして館山市から一定の納付金が納
付されております。

消防団員一人当り百三十五円、消防作業従事者として
最近の国勢調査による人口に十九銭、水防一人当り十九
銭、この割合で納付する。

それからもう一つ、そういう災害があらうた場合に市長からこ
の基金に對して請求し、基金から相当額が交付さ
れるということになっております。

それから二番目の点でございますが、消防取組の方に対
しましては年金制度はございません。これも早急に考え
なければならぬということに聞いておりますが、現在う
ところの年金制度はできておりません。

労働基準法に基く地方公務員として取り扱はう

ことだけでございます。

年金には、途中でもう一方がなくなつた。あとは、受給者がいなくなつたという場合が起るわけでございますが、これは、政令によりますと先づ、説明いたしまし、補償基礎額に四百倍いたしまし、かつ、もう一つは、ただけ、差し引いて、差額をそこで一時金をもつて支給すると、ううとございます。

一番(辻田実君)大体趣旨は了解いたすわけでございます。するけれども、一時金制度もないというところがある。失済の方加入というものができなくなるかどうか。そういう場合、相当不利が起るかどうかという点について、まず再質問したい。

もう一つ、年金制度に代わることは、最近、労災金が年金に代つたわけでございます。それで、当初は問題

は打かつたけれども、私たちが、そういう面になすきわて、
 おります。一時に婦人う場合なんか年金になった
 ために例えれば、従来でいなら、死七によって、三百方、四百
 万というものが一時金でできた。それが年金になった
 めに、若い未亡人なんか、場合に再婚すると同時に、なく
 なつてしまふ。ですから、一時金でもらつておけば、三
 百万位もらうておる。今度は、再婚すると不利になる。
 二では、結婚しなくても、できないという状況もあった。

特に勤労者の婦人の中に、そういう問題でもって、不
 満があつて、改悪ではないかという意向が、巷間流れて
 くる。ですから、三という形でもって、消防団員の親族
 の方々が、一時金の方が非常にいいのだという意向が、出
 てきた場合に、改悪的になつてしまふというところかと思ふ。
 二の点について心配してゐる。三の点についてはある。

程度の御意見を関係者からう意向、そういうものは聞く機会があったか。その点について参考までにお伺いしたい。

消防本部次長（石渡東君）（第一点につきヨクでは意味が取れませんので第三点再婚いたしますと。そこでは再婚しない場合には収入の主たる主人がなくなつてしまつたので、かわりとしては、おかしいが年金が下る。再婚いたしますと、収入を得る道ができますので、そういう意味合いだと思ひますが、そこから打切りということになります）。

一時金をもらった方が得だという解釈もござりますが、一番最初の年金をもらうに先だつて一時金を下さいという申請をした場合、基礎額が四百倍をまず支給する。四百倍の金を計算されてないくずりていつた場合にまた年金が下る。二ううううことになっております。

一番(社田実君)一番目の問題については、共済組合に加入している中で、政令に基いて指示された改正案というものをそのまま施行しないと共済組合加入、そういうものが不可能になるかどうか。例えばこの条例の中で端的に申しますると、年金制というものをはずして一時金にいた場合、共済組合の支給、そういう面に支障が出てくるのか、こういうことです。一時金だけでも共済組合から支給できるような制度になっておるか、任意に一時金だけで入りたいということが、こういう形でできるか、できないか。

消防本部次長(石渡東君)共済への加入につきましては、館山市町長と共済基金とが、あなただけというところ、契約してございますので、基金法に基くすべてが条項に使用していくということになっておりますので、そういう

半分だけは入りますが、それ以外はできないということでは、
現段階ではできないと思います。

議長（田中祿郎君）議案第三十五号は討論省略原案と
あり可決することに御異議ありませんか。

（「異議ナ」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ナと認めます。さうして議案
第三十五号は原案通り決定いたしました。

日程第三、議案第四十四号、議案第四十五号、議案第四
十六号。本案は来る九月二十一日、本会議うちの説明
がなされてあります。さうしてなだちに質疑を行ないます。
一番（石井正吾）二点について伺います。

最初にどんあい処理の関係につきまゝて現在ポリバケ
ツによって行なわれる面と個人で捨てるという問題に
かかっています。どんあい処理場が完成したうち

におきまして、個人一般へ投入と申しますか、この点についてはいかに考えておるか。これが一点。

次に交通事故相談所に負担金が出されておりますが、交通事故相談所の内容、運賃等、もう少しく細い点を教えていただきたい。以上。

・衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。従来やつておりますゴミの収集、これは継続いたしまして、市におきまして、処理場完成後も処理場におきまして、全部完全処理をしていくという方針でございます。なお、それ以外、個人、ゴミ関係でござえますが、これにつきましては、現方針といたしましては、有料によりまして、あそこで量目を計算いたしまして、条例による単価にいたしまして、料金を徴収して、個人、ゴミの完全処理という方向に持って参りたいと考えております。

今後そういふ条例の設置等をいたしまして、実施していただきます。
このように考えておる次第でございます。

・商工観光課長（小沢正治君）第二点に關しまして御説明申
上げます。これは千葉県知事はか大市や市長が中
心にありまして、財団法人千葉県連合会がこゝ相談所を
開設して、運営させていくという案をもとに今年四月
日を開設予定として準備を進めていたものでございま
す。それを去る五月、県下や市長会において大体皆さ
ん方同意を得られたというところで早速にこゝまうな形
で運営費を負担をお願いをするという事になったわけ
でございます。

こゝ場所は一応県庁内と目赤や県支部建物を予
定する。常設として交通相談員三名、女子取員
一名、計四石を常勤として置く。その他に囑託弁

護士一名、日曜・祝日を除く毎日開設して官庁の執務時間による。なるべく県下各地方出張して巡回相談に充てる。相談の範囲といふことは、交通事故の示談の方法に関する事、交通事故の損害賠償手続に関する事、運転免許の取得、車両の手続と関係、交通法令の細かい解説等、相談にも充てる。さらに交通の苦情の相談にも充てる。一応交通問題一般に関するところ、全面的に扱っていく。ただ裁判所に係争中の場合、適当でないものについては、助言する程度でいくというが、要するに大体の方針でございます。さらにこれは面接相談が主でございますけれども、書面による相談、電話による相談は、簡易なものであれば受け付けるといふことで、さらにいくつは、

各警察署単位、交通安全協会が設置されており、
が、この警察署単位にも状況によって相談所を設置
していくという方針で進めたい。このような状態でござ
います。

二番（石井正君）第一点、問題につきまゝては了解し
たんですが、一般の方に自由に安易に捨てらるるような
方法を考えていただきたいと希望いたします。

それから交通事故の問題ですけれども、これは非常に
事件が多いと解釈します。で、今の出張というよ
うなことでは手が回らない。希望する人につき
届かないというように解釈します。で、ただ今、お話を
ありまして、出張所というような形もやがてできる
ということですが、ただちにというわけにはいかないと
思います。一応負担金を出す以上はそういう希

望を十分述べられて、そういう点を希望いたします。わけ
でございます。なお、もう一点、負担金ですが、毎
年出すものか。今年一回だけか。

・商工観光課長（小沢正治君）一応私もといいたい。ましては
年間、運営費七百二十万と六市で三百六十万、百
三十五万と十三市でという形で文書を受け取って
おります。で、毎年というふうに考えております。
一八番（西村真次君）二点だけお尋ねしたいと思ひ
ます。

選挙費でございしますが、永く選挙人名簿というものが
今度できるといふことではございますが、この名簿と住
民登録法との関係、これはどういふ関係に立つものか
もちろん、性格がまるきり違う、独立したものである
といふことはわかるわけですが、いとも、もうちょっと内容

的な面で共通点があるように思うのでありますが、どんな
関係に立つものか、教えていただきたい。

もう一点は失対事業が全面打ち切りになったというお
話でございしますが、この全面打ち切りによって今日まで
予定されておったような工事が中断するということになる
結果を生じていないかどうか、簡単に結構でござい
ますから、お答えいただきたいと思います。

・選管書記長(大嶋重義君) 第一点についてお答え申し上げます。
永久選挙人名簿になりまして、従来、基本名簿、場合
によりまして住所の認定についてはかわっておりません。
住民登録との関係でございしますが、大事なことは住所
の認定でございまして、これについては、憲法や規定も
ありますように一カ所でございまして、住民登録の取り
扱いは同じに見ております。

土木課長(新井重助君)失業対策事業について御説明
 申上げます。対策事業は四十年年度より路面の補
 修・砂利敷・舗装の修繕という方にかえて参りま
 した。これは人員の縮小に伴うかえ方でございます
 て、四十年年度も路面の補修と砂利敷七百五十一メー
 ルというところで提案してございます。今回、四人の失業者
 を定取さすまいと、計画通り執行できると考えてま
 います。

一八番(西村真次君)第二点了解いたしました。

第一の選挙人名簿の点でございますが、大体わかるわけ
 ですけれども、住民登録簿と大体同じであるとするば
 住民登録簿をひき写しするかなんかで改めて調査
 員を派遣してこれだけの手当を必ずしも必要もないん
 ではないかという気もいたしますが、ただ大事なことでござ

いますので、念々をいれてということであれば別ですが、住民登録の場合も住タビで届け出をいっていない人が、あるわけでございます。また届け出が原則ということになつてゐると思いますが、また、取権で抹消してしまふという二とがあるわけでございますが、取権で抹消してしまふ場合にも、その人がどこにいつてしまふか探さうが、ない。こういう場合に選挙人名簿の方は、どういふふうなことになりますか。もう一つと具体的にお話しいただきたいと思ひます。

選挙書記長（大嶋重義君） 足りなかつた点を申しあげます。今回、住民登録のため、実態調査とそれから永久名簿の関係、選挙資格の調査を同時に行なうことのおもな理由でございますが、大体住民登録につきましては先ほど西村議員さんのお話にありまゝとあり

本人より届け出の原則になっておりまして、実態にそぐわない場合が当然考えらるわけでございますので、二通りの住民登録法にも規定もございまして、市や条例も第五条におきまして、毎年一回住民登録の実態調査を行なうのだということが規定されておりますので、これは毎年行なっておるわけでございます。また、選挙の基本調査も毎年行なっております。同じような調査でございますが、今回は特に国の方で御承知のように住民台帳の合理化調査会というものができておりまして、二つ機関の答申によりまして、来年度あたり、住民基本台帳法がほとんど実施になる目安がついておるというふうな関係で、これが実施になると、一斉調査を行なうことになるのであります。が、二つ切りかえに当たって、すぐ一斉調査を行なう

ということは困難性があるということ。で、今回、選挙資格の調査の際にこれを合わせて行なうて住民台帳の制度のとき、予備調査としてやられた方が経費的にも、或いは能率的にもよろしいので、合同調査というものが、今回一踏にやるおもしろい理由でございます。

それから、住民登録関係と選挙の資格関係でございますが、今回、場合でも、住民登録していない者については、すぐ登録したり、或いはいない者については、これを抹消していく。こういうことでございまして、選挙資格につきましても、住所の認定は同じでございますが、住民登録をしないで、この調査には一応のついでに、このように考えております。

。三番（君塚喜三君）一点だけ伺います。総務管理費のうち十五節、工事請負費といたしまして、駅

前自動信号器設置工事請負費 四十一万組まゝ
 なるわけでございます。まするけれども、おそらく特定財源
 三十一万という方は、寄付を受けて市が施行する。

二つという形のものであらうかと思つてあります。が、
 二つまで、信号器はすでに二カ所設置を見ておる。

二つに對しましては、市が二つに補助金を出して、安全協
 会が形で設置を見たいが、二つまでという例のように記憶
 いたしてあります。が、今回は寄付を受けて市が主体と
 なつて二つをやるのだという方法が取られた。二つことは、館山

市が交通安全都市宣言を行なつたということにおいて、今
 後二つは、市が主体の上にやつていくのだということ
 を意味するものか。むしろ信号器ばかりでなく、いろいろ
 標識などもあらうかと思つてあります。が、今度は
 補助金においてやつてもらうというこゝでなく、寄付を

受けて市が主体にやっていくということは今後もおやりになろうとしてゐるのか。この点をお伺いしたいわけですが、
・商工観光課長（小沢正治君）お説きとおりでございます。

極力市においていろいろな事業は実施して参りたいというふうな方針で考えておりますけれども、今回、信号器の場合は一応ロータリークラブに寄付によりまして南町が完成いたしました。こゝにタイアップというか、ライオンズクラブの方から私どもの方でもそういう形で御寄付申し上げたいということでございますので、こゝに受け入れていただけてございます。

大体信号器関係は、本来県が実施すべきものでございまして、県が予算配分を待つておるという事になるかわからないことでは、私どもは、県の方に予算配分を要請をしながら、いろいろな重要な人命

に關する問題でございまして、極力促進するた
めに事業を進めて参りたい。ニううふうに考へてお
ります。

一、番(止田実君)市、取員關係についてニつ御質問いた
したいと思ひます。

一つは一ページ、土木費、給料ですけれども、これは失
對費、給料が移項されてなるということでした。解して
なるわけですが、市、取員になつたわけでございます。
けれども、ニうう採用に當つて、初任給、問題、そ
ういふ面については、どういふに行なわれたか、といふ点について
経費手数とか、そういう面について、考慮はされたか
といふことについて、まず、第一点にお伺ひたい。

第二点、永久簿、等人名簿を作るに當たりまして、餘
では、三十三万、その中で取員、調査、そういうものが十

一月という形でやっておりますが、過日の千葉新聞等
を見ますと、習志野あたりでは大体百万円追加予算
等が組まれたと報道されておりますが、内容はわかりませんが
人口規模からいくと、そうかわらないわけですが、あまり開
きがあるように感じられますが、安く上げるということとは
結構ですが、取員にいわ寄せするということがあつては、
務管理上、おもしろくないことでございますので、こゝう関係
について、参考までに答弁をいたしたいと思います。かように思ひます。
秘書課長（小倉澄男君）第一点も答へたいです。勘清の
をいっているのではないかと思ひますが、こゝ失対事業を
こちらに移したうは、地方自治法う改正によりまして、各款
から支出する人件費は、各款に盛るうだということと、今
まで、失対う方は補助金関係等もあるうで、こちら
に盛つておつたんですすが、取員う給料というものは現

在までも正式の取員が給料でございまして土木課長
 から説明がありまゝなりは失対人夫として取員安
 を通じて受けていた人夫を市が常用人夫として賃金
 から支給するということとでございまして失対人夫を市
 が正式取員に採用したということではないわけです。
 第二点もお答えいたしますが、習志野と館山とケースが
 違ふと思ひますが、習志野は人口の動態心が非常に
 激しいこととケースが違ふと思ひます。県でも問題に
 なつたのであります。我々も地方課に参りまして永久課
 拳人名簿作成に当たりまして、住民実態調査を以て
 ということで館山が主張して通つた形になつたのでござい
 ます。二つ場合につきましても、某地や市では反対した
 できないうただということであつたんです。が、館山市あたりは
 非常に小さな町で流動も少ない。市の取員が行政区

を持っておりまして当面将来ニハ何うなり形ではな
いかなければならないということを考えておりますが現在
段階では取員が行政区を持っておりましてそれによつて
市民の突態を把握してあります。それを使えば十分調
査できるということで、ニハに甘んじてまつたわけでは
ありませんが、本当であれば特別な人夫を雇用いたしま
して調査する方が本来であるかと思ひますが、経費の關係上
ニハで間に合はぬといふことではございまして、ニハで十分
支障のないようには調査がなされるということにつま
ま、ニハに計上した次第でございます。

一、番(廿田実君) 大体了解したわけではございますが、
ども、そうすると失対する人が常用取員ということでは
名前がかわつたということに判断していいか。ニハ点につ
いて御答弁いただきたいということと、もう一点は、選挙

人名簿の作成ですが、果て支出金二十六万五千円ある
 んですが、果て方で基準にして査定して館山は三十
 六万五千円とか、習志野は幾ら、千葉は幾らとさめて
 くるのか、館山市はこれに当って予算見積りを作
 ることにより何%支給するということもわか、その点につ
 てはどうなつてゐるか、参考までに御答へいただきたいと
 思います。

秘書課長(小倉登男君) 土木課長に聞きまゝなら日給は、
 シートに書いてございまして。

市に入りますと一年常用いたしますと市が共済組合に
 加入させますので優遇するということふうには解釈して
 おります。

選挙書記長(大嶋重義君) ただ今、交付金の関係でござい
 ますが、これにつきましては、国が今度、永年選挙人名簿を

経費としまして約五億近い予算を計上しましてそれらを
各市町村に分けて積算する基礎は一世帯十五円という
額にその市町村の住民の異動率を勘案したもので交
付するということとで県の方からこの額が参ったわけでござ
います。

一七番(黒川佐太郎君) ユースホステルの上砂止め工事ですが、
まことに時宜を得たものである。雨のために流れるのでそ
れをどういう方法でやるのか、せっかく作ったものが再び流れて
しまうということがあってはならないと思うので、念うため
に聞きましておきたいと思っております。

・商工観光課長(小沢正治君) 現場をぐるん回ると思
います。ああいう形になった最大の原因は風が吹き回
わってえぐるということとでござりますので、砂で止めたり
と上を飛ばさない土でぬん土質の土を持ってきて砂を移

動を防ぎまゝで、その上にいろいろ植栽をやっていく。風でも砂が吹かないように上で砂を移動を防いでいく。そういう計画でございます。

一七番(黒川佐太郎君) 大体結構だと思ひますが、ユースホステルや近くコンクリートが何かで土止めがほいほいしています。それでないとユースホステルの方に必らずくると思ふ。土を十分入れて芝でも植えて崩壊しないようにやっています。いまだきないと思ひます。

なお、また、現実の問題として上の方の危険にひんておるので一日も早く施行せられんことを希望して終ります。

二一番(石井正君) 一つだけ青年館の問題ですが、青年館の問題につきまゝで、私最初頃から関心を持っておいて、わからないうちにもある。いろいろ聞いてきたん

ですが現在聞きますところによりますと非常に私に聞
いた考え方が違っておったんですが、具体的に申し上げま
すと、これは県の五カ年計画という一ことで一かも数が
きまつておる。安房郡市に五十という間違つておつたう
お知らせ願いたいんですが、大体五カ年間で館山市に
十カ所という二とに数ははつきり聞いておりますせんが、大
体そんなもろだ。そうするとあと二カ年の間に幾つも
館山にはできないという解釈になるわけですが、そうすると
今まで各地から要求があつて市では許可を以て工事をし
ておるようでございますが、こうなるとやはり市といつてま
して大きな立場から一つの方針を持って場所をきめてく
要求があつたからとんとん出すということではなくて、ある
程度の方針をお持ちかと思つてわけでございます。
その方針をはつきりとお答え願いたいと思います。

市長(本間 讓君) ニよは、果々方針によつて市が結構なことだから協カして地元の要望にまづてやつておるわけでございますが、青年館の建設は青少年育成面、いろいろ面からきてゐることでありまして市でもでき得る限りやつて参りたいと思ひますが、果々方では五カ年ということで一応やつておりますが、おそらくこれはもつと継続するんではないか、また継続してもらつたらういふお願いしたいと思ひますが、果々方で継続できないような場合に要望によりまして果々方では財政の許す範囲において継続してゐるべく要望にこたえてつくとかが、私はいいことだらうと考へておるわけでございます。

一 番(石井 正君) ちやつとお答へが大ざっぱでわからないんですが、市長さん考へてはわかりませんが、再度お答へ願ひたいんです。

五カ年計画で館山市に大体幾つ位お考えになっておられるか。それから今後十カ所とすればあと四カ所ばかり残っておるわけですが、これをどういうふうに地区的にお考えになつておるか。例えば要求があればさらに長須賀の例を取りますれば、長須賀で来年もう一カ所要求すれば許可になるかどうか。地区的問題がありますので、その点、福祉事務所長補佐（横溝功君）「青年館につきましても、今年で三年目でございます。あと四つ残つておるわけでございます。」

五年後のことにつきましては、市長の答弁とおりであると思ひます。

それから今後残された四つをどうするかという問題につきましては、青少年相談員にPRをいたしましてまた方々から

要求もでてきょうかと思ひますけれども、青少年補佐
問題協議会にはかつて地区をきめていきなれと思ひつて
あります。

二番(石井正君)もう一点、具体的にそれでは来年度の方
所ですが、どうしようかと考えて福祉課の方でよろしく
か、それをお聞きしたい。それから相談員の協議会で、
おきめをいただくようお願いですが、聞くところによると
とほとんど協議会が開かれていないように聞きますが、
二点もどうようになつてゐるか、お聞きしたいと思ひます。
福祉事務所長補佐(横溝功君)お答えいたします。第一
点でございますが、来年度につきましても、まだ、具体的
にどこがというふうなことをいつてきておりませんので、現段
階におきましては、お答えしかねると思ひます。

それから、青少年問題協議会につきましても、青少年

係ができた早々でございまして、まだ一人でやっておる關係上、
早急には開けない状態でございますけれども、七月中には
これをやはり開きまして、青少年の健全育成対策を講
じていきたいと思います。できれば、半三回程度、この会議
を持つて、青少年対策を強く打ち出したいと思つております。
一番（石井正君）市長さんにもう一度お伺いいたしますが、
今も答えてあと五カ年間の中においては、四カ所だ。
そうすると、私が聞いたことが正しかったわけですが、そう
するとやはり数ばかり増えておりますので、今後、四カ所
いつきましても、市長さんう腹としては大体このう、
地区的にという考えがあつて、一かゝるべきだと思ふ。たまに
ま、そういうところから要求がなければ、また協議会と
いうようなことも考えらうと思ひますが、一応市として
の方針といたしますか、そういうものがあつたかどうか、そ

れをお伺いしたい。

・市長(本間譲君) 今までは大体要求によりまして、それを検討してきめて参ったわけでございますが、要求がない場合のことはどうですか。

・二番(石井正君) 要求が多くあった場合はもちろん考えるでしょうけれども、ある一定の地区に多くかたまると、市の方針というものがないと、そういう欠陥が現れてくるということでは心配する。それでいいかどうか。

・市長(本間譲君) やはり地域を考慮してやらなければならぬと思います。一地区だけへ集中するということでは、今の段階では無理だと思ひまして、館山市全域ということとを考へまして、そうしてやつて参りたいと考えております。

・七番(田村源治郎君) 商工費についてお伺いいたします。海岸の便所、三カ所ですが、相の政に一カ所を移すという

ことを聞いていなければ、夏だけやってあとは取りこわして
しまうということも、観光課長はいいけれども、夏だけで
こわさいては、民宿組合も困る。民宿業者は秋から釣師
がくるから、夏が終わっても、永久にやつてもらいたいという要
望ですが、夏季が終わらう取るのか、取らないのか、こゝが第
一点。

次に教育費でございますが、富崎小学校の修繕料でござ
います。が、十万円と出ておるが、果たして十万円でござ
るか。ま、一風強いところに建つておるから、それと十
万円、局部的にやつていいものかどうか、局部的にやつて来
年また十数万、三十万なおすなら、徹底的になおすという
考えで組んでおるか、その点、教育長に。

・商工観光課長（小沢正治君）海岸の便所でございますけれども、
御承知のように、海岸の国有海岸の砂地の使用に関

一では最近きびしい規制がございます。そういう関係で
 ミウといったような仮設施設は夏う海水浴を対象とする
 場合は三カ月が程度になっておりますが、あとさらに効
 果的に使用する可能性が強いということであらば一応夏
 う終りまであとで、果う土木事務所、地え我々、三者
 打ち合わせの上、善処して参りたいと思います。

七番(田村源治郎君)個人が持ちもうでも、組合う土地も
 あるんだ。国有地がうるさいつら組合う土地がありま
 すから、そらに設置してもらいたい。こういう土地の要
 望があるんです。

国有地に建てなくても済む。完全に四季に必要がある
 んだが、いかかな考えを持っておるかその点伺います。
 商工観光課長(小沢正治君)私どもの方といたしましては、海
 岸砂地ということと伺っておたわけです。

ただ今御飛言うように国有地以外に適当な場所があつて
そこが適切であるというふうに地えが意思統一しておい
ば改めて相談いたしたいと思ひます。

・教育長(押本禧逸君)校舎の修繕の件でございすので
担当の庶務課長に答弁させます。

・教委庶務課長(千場伊右衛門君)十萬の修理費は、局部的
な修理をすることとてございまして富崎小学校の現在玄
關にある校舎、こゝ窓ワク敷居、そうふうもが腐つて
おる。で最初私の方は、五万位と見たのでございす。が、
実際見積つて見ますと、どうしてもあと十萬位は、
というところでお願いした次第でございまして、この程度のも
うは、これで修理できるといふこととてございまして、
追加
予算でございす。で、局部的修理にとどめた次第で
ございす。

七番(田村源治郎君) 今、庶務課長から聞きます。たけいども、局部的に十方で修理する。

学校施設は、どこがとだけいたんでゐるのか。こゝろをよく調査してあるのかないのか。

富崎などいひもんだ。こゝろについて資料、確たるものを説明していただきたい。

・教務庶務課長(千場伊左門君) 学校も修理につきまして、各学校から全部修理箇所、そういうものは一応取りまして、それに基いて教育委員会で大体回わりまして、どうしてても修理しなければならぬというふうなところを、それぞれ各学校ごとに修理を実施しております。

・七番(田村源治郎君) 今聞きますと、資料を学校当局から取り、取うて、そうして回つてゐる。こゝろでは、無責任だ。

それだけ、やり方では、房南中学校では、予算ばかり取

って仕事を——していない。そういうことになるんではないか。それで
いいか。もっと教育者として、学校保持それから最善の
努力を持って保持の基本を考え、努力をしていただきたい。
七番議員として要望いたします。

議長（田中祿郎君）議案第四十四号、議案第四十五号、
議案第四十六号は討論省略原案通り可決いたす
ことに御異議ありませんか。

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ないと認めます。よって議案第
四十四号、四十五号、四十六号は原案とおり決定いた
す。

午前、会議はこゝにて休憩いたします。

午前十一時五十九分 休憩

午後 四時五十五分 再開

議長(田中祿郎君) 午後、出席議員数 三十一名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第四、請願書を上程いたします。

(書記朗読)

議長(田中祿郎君) 請願書、説明を求めます。

一番(吉田勇治郎君) ただ今、議題となりまして、その紹介議員といひまして、御説明申し上げます。

ここに要旨、理由等、つまびらかに書いてございまして、詳細にわたりましては、これをお読みになっていただくことといひまして、付け加えて申し上げますことは、私が申し上げることもございせんが、祖国の安全と平和を祈念して、不幸国家の犠牲にならねばならない。

当然かまうな。書いてあるような趣旨の措置を講ずる
ことは当然だと私は考えるのであります。なお遺族の方
々う心も同様と信ずる者でございます。

願わくば全会一致をもちましてなき靈、並びに遺族の方
々うためにもなお、今後私たちが民族の発展のためにも
本案が満場一致議決されることをお願いして紹介議員
の説明を終らうといたします。

議長（田中祿郎君）説明を終りました。これについて何か御
意見がございませうか。

一番（辻田実君）請願書に対するところいろいろなことに
つきまわすではすでに全員協議会等においていろいろ
話し合ひされておりますので、この内容について質問
はございせんけれども、私は動議として本請願書を
継続審議に付してもらふことを提案いたしたいと思います。

わけでございます。

まず第一の理由といひまゝては提案にございませうに「祖国の安全と平和を守り、民族の繁栄のため、尊い生命を国にささげ、英霊の偉徳を永遠にたたえ、国民としてこの精神を崇敬することは自然の情であります。」というところであります。この文章

のところを特に主張いたしまして、私はこの趣旨であらう。二にかかげられたような請願の趣旨内容であつてはむしろ将来において、この趣旨が国家に規制されて、自然の形で遺族やさらにはなくなつた多くの人たちが、むしろわざわざ起す結果になつてくるのではないか。こういう問題が、この請願、その中から出てくる。事務的には憲法に抵触するという面がまだ、解明されておらない。こういう問題を残しながら、全員一致というわけ

にはなかなか参らな。従つて継続審議に付していくというところが
もつともよりよい方向ではないか。かように思ひまゝで、動議と
いたしまして本請願書を継続審査に付していただくこと
を提案いたします。

二三番(中村省吾君) 一〇番議員、動議に賛成いたします。
議長(田中稔郎君) ただいま一〇番議員から請願書を継続
審議にさしな。い。と。う。動議が提出さ。れ。所。足。り。賛。成。者。が
あります。う。で。動議は成立いた。ま。い。た。よう。本動議を
ただちに議題として採決いたします。

本動議に賛成。う。諸君。起立を求めます。

(起立少数)

議長(田中稔郎君) 起立少数。よ。つて本動議は否決さ。れ。ま。い。た。
二。い。ま。本請願書に對して採決を行ないます。

本請願書を採決と決。ま。す。こ。と。に。賛。成。う。諸君。起立

を求めます。

(起五多数)

議長(田中祿郎君) 起五多数。よって本請願書は採決することに決しました。

ただ今採決されました請願書の処理に関する意見見書案が吉田勇治郎君ほか五名により発議されました。おはかりいたします。

本意見見書案を本日イ日程に追加いたしましたちに議題といいたいと思います。ここに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決しました。意見見書案を議題といたします。

意見見書案を配付いたします。

(意見見書案配付)

議長(田中祿郎君)意見書う配付漏れはございませんか。配付漏れなと認めます。

朗読いたします。

(書記朗読)

議長(田中祿郎君)説明を求めます。

一番(吉田勇治郎君)ただ今朗読いたしまして、音の書でございまして、満場御賛同を得まして、この有効、適切な個所に送付されることを希望いたします。でございます。よろしく願います。

議長(田中祿郎君)本意見書を採決いたします。

本案に賛成、諸君う起立を求めます。

(起立多数)

議長(田中祿郎君)起立多数、よって本意見書は可決され

ました。おはかりいたします。

ただいま市長より報告第二号が提出されました。

二、際、二、を本日、日程に追加し、ただちに議題とい
—たいと思います。二、に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって報告
第二号を日程に追加し、議題とすることに決まりました。
報告書を配付いたします。

(報告書配付)

議長(田中祿郎君) 配付漏れはございませんか。—配付
漏れなしと認めます。

朗読いたします。

(書記朗読)

報告第二号 財団法人館山市開発公社、経営状況説明
書提出について。

・企画課長(谷貝茂生君)開発公社の昭和四十年年度事業報告並びに会計決算報告でございますが、実は許可が本年三月三十日付でもって許可になりまして、その通知が三十日にございまして、会計の内容につきましても、それだけのものになっております。なお、参考までに経過をそこに御報告申し上げましたが、十月二十八日審議会特別部会で規約等の検討、三月四日議会におはかりいたしまして説明を行ないました。三月十日全員協議会に設立の趣旨の説明を申し上げまして、三月十日議会で公社結成について出資金百万円、補正予算の議決をいただいております。

三月十五日發起人会を開催いたしまして、公社設立代表者と館山市長本間譲氏に設立要綱審議料決定、公社基本財産八十万、運用財産二十万、百万円を定

めまして事業計画並びに収支計算書を決定いた
まいた。三月十六日、設立許可申請を千葉県知事
に提出。三月三十日付、千葉県指令第一一四三号
をもって設立許可。正式に財団法人館山市開発公
社として設立したうでございす。

三十一日、出資金、百万円を受け入れまして創立したうで
ございす。

会計内容につきまゝては一日だけでございしたうで、受
け入れだけで済んでおります。

四月十一日付で登記を完了いたしてあります。
内容につきまゝてはそれだけでございすので、簡単
でございすか、御説明を致します。

（「異議ナシ」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ナシと認めます。よろしく本報告

は承認されました。

千葉県八市競輪組合議会議員の高橋文治君にはこのたび、都都合により、その取を辞任され、よって六月二十三日より本市より選出の組合議員は欠員ととなり、従いまして選挙規約第六条第三項の規定により、これが補欠選挙を行なうことにいたします。

おはかりいたします。

本補欠選挙を本日の日程に追加し、ただちに選挙を行いますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって、この選挙を行ないます。

おはかりいたします。

選挙の方法につきましては、地方自治法第百十八条第

二項の規定による指名推選によりたいと思ひます。

こゝに御異議ありませんか。

（「異議ナ—」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ナ—と認めます。よつて選挙

の方法は指名推選によることに決定いたしました。

おはかりいたします。

指名の方法につきましては議長において指名することはい
たいと思ひます。こゝに御異議ありませんか。

（「異議ナ—」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よつて議長
において指名することと決定いたしました。

八市競輪組合議会議員に山口康君を指名いたしま
す。

おはかりいたします。

ただ今、議長において指名いたしまして山口康君を八市競輪組合議会議員、当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議ナシと認めます。よつてただ今指名いたしまして山口康君が当選さいます。

ただ今八市競輪組合議会議員に当選さいます山口康君が議場におりますので、本席より、議規則第三十二条第二項の規定により告知いたします。この際山口康君を御紹介いたします。

三六番(山口康君) 議席からうごあいつすることをお許し願いたいと思います。

たにぶんにもよろしく願っています。(拍手)

議長(田中祿郎君) この際お事はかりいたします。

かねて申し合はせ協定により、常任委員会、委員の改選を行ないたいと思ひます。

これを本日、日程に追加し、ただちに議題といふべきと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって日程は追加さしまつた。

おはかりいたします。

常任委員会、委員の改選を行ないます。ことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって改選することと決まつた。

重ねておはかりいたします。

ニ、改選決定宣告により、現在、各常任委員会、委員は全員、その辞職、全委員会とも欠員となったことにより、二とに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決まり。

ただ今決定さし、各常任委員会とも欠員となり、まうで本日、二とに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって本日、ただちに選任することに決まりました。

二と、常任委員会委員も本市委員会条例第四條の規定により、選任いたします。

局長より報告いたします。

事務局長(高梨清一君)

総務常任委員会委員

館石伝蔵さん 志村信作さん 島野茂樹前さん

山口 康さん 西村真次さん 高橋文 治さん

山本 昇さん 松本藤太郎さん

経済常任委員会委員

小沢恵太郎さん 小柴 孝さん 安西益男さん

君塚喜三さん 安沢徳順さん 江田徳太郎さん

三沢 節さん 安藤島吉さん 鈴木正一郎さん

文教民生科常任委員会委員

山田教宇さん 関 武夫さん 嶋田 繁さん

辻田 実さん 石井 正さん 黒川 佐太郎さん

藤田好治さん 秋山大三郎さん 吉田 勇治郎さん

建設常任委員会委員

萩生田七郎さん・菊井敏博さん・中村省吾さん
田村源治郎さん・鈴木市蔵さん・望月照正さん
保科忠夫さん・田中祿郎さん以上であります。

議長(田中祿郎君)以上とおり各常任委員会委員に
選任いたします。

ニハク御異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議ナシと認めます。
よって決定いたします。

この際条例第五条の規定による各委員会において互
選さるべき正副委員長を報告いたします。

総務常任委員長 西村真次君

副委員長 篠石伝蔵君

経済常任委員会委員長

鈴木正一郎君

副委員長

安西益男君

文教民生常任委員会委員長

関 武夫君

副委員長

藤田好治君

建設常任委員会委員長

望月照正君

副委員長

中村省吾君

おはかりいたします。

本定例会に付議さしめられた議事は以上をもつてすべて議了
さしめました。

もつて会議規則第七条の規定により本日をもつて定例会を
閉会いたします。ことに御異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(田中稔郎君) 異議ナシと認めます。よつて第二回市
議会定例会は本日をもつて閉会と決まりました。

午後五時十二分 開会

本日、會議に付した事件

一 議事日程に加えて

一 報告第二号

一 千葉県八市競輪組合議會議員補欠選挙

一 常任委員会、委員の改選

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝藏

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井

正

菊井敏博

志村信作

小沢惠太郎

関武夫

黒川佐太郎

西村真次

藤田好治

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

嶋田繁

山田教字

鈴木市蔵

安藤亀吉

安沢徳順

三沢節

高橋文治

松本藤太郎

山口康

欠席議員

保科忠夫

山本昇

出席説明者

一 第一日目に同じ

出席事務局取員

一 第一日目に同じ

昭和四十一年六月二十三日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

田中祿郎

同 署名議員

安部 嘉吉

同

望月 昭二

